

令和5年度

優れた教育活動表彰

1 学校（12校）

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
安来市立十神小学校	江 戸 宣 文	<p>令和4年度島根県国語教育研究大会・島根県書写教育研究大会に向け、令和2年度から3か年にわたり、国語科の「読むこと」の研究を推進した。令和4年度は、研究主題「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成～つけたい力を明確にした説明文の指導を通して～」を掲げ、「読むこと」における説明的な文章の指導について研究実践を積み重ねてきた。</p> <p>つけたい言葉の力を明確にした単元の構想について、指導内容、単元目標、言語活動の結びつきを整理し、年間指導計画や系統表を作成。どのように展開するかを共有するため、単元構想の手順を設定し、授業を実践した。また、学ぶ楽しさを児童が実感できる課題解決型の授業「十神小授業スタイル」を提案し、児童が主体的に動き出したくなる授業の展開について研究を重ねた。</p> <p>研究会当日には、研究成果の「子どもをとらえる大切さ」「教材研究の大切さ」を参観者が実感し、国語科教育の推進に寄与した。</p>
安来市立社日小学校	須 藤 健	<p>令和4年度島根県国語教育研究大会・島根県書写教育研究大会に向け、令和2年度から3か年にわたり、国語科の「読むこと」の研究を推進した。令和4年度は、研究主題「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成～主体的に学び、ともに高め合う文学的な文章の学習を通して～」を掲げ、「読むこと」における文学的な文章の指導について研究実践を積み重ねてきた。</p> <p>「主体的に学ぼうとする子どもの育成」について、ねらいやつけたい力を明確にし、学習のゴールが見えるようにするため、単元構想の手順を設定した授業を実践した。「ともに高め合おうとする子どもの育成」については、自分の考えをもつためのワークシート形式や互いの考えを交流させる場を工夫し、効果的な対話の在り方を探るための研究実践を重ねた。これらの取組を支えるための基盤づくりにも注力し、全教職員が一体となり研究を推し進めた。</p> <p>令和5年度は「主体的に学び、伝え合い高め合う子どもの育成をめざして」を研究主題に掲げ、昨年度までの成果に加え、校内研究の一層の深化・充実を図る取組を進めている。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
安来市立島田小学校	青 砥 玉 枝	<p>令和4年度島根県国語教育研究大会・島根県書写教育研究大会に向け、令和2年度から3か年にわたり、国語科の「読むこと」の研究を推進した。令和4年度は、研究主題「確かで豊かな言葉でつながり合う子どもの育成～自分の思いや考えをよりよい言葉で表現し、ともに学び合う授業づくりを通して～」を掲げ、説明的文章を教材とした学習を中心に読みの力を高める指導について、全教職員で研究実践を積み重ねた。</p> <p>「全文シート」を用いた教材分析や、「発展と関連」の表に基づき身につけさせたい資質・能力を明確にし充実化。「単元構想シート」を用いて、ねらいを明らかにした授業を構想できるよう実践を重ねた。また、話し合い活動の目的を明らかにするとともに、思考を可視化するツールを有効に活用し、効果的な対話の在り方を追求した。</p> <p>研究会当日には、子どもたちの思考が見える化された授業、教師の主導ではなく、子どもたちが生き生きと学ぶ授業を、参観者が実感した。</p>
雲南市立阿用小学校	高 木 敏 光	<p>公益社団法人日本学校歯科医会が実施する令和3・4年度「生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業」の指定を受けた。児童同士での歯みがきの声かけや、児童・保護者で結果が確認できる歯科検診の定期的な実施など、学校や保護者、学校歯科医等と連携し、主体的に歯と口の健康づくりに取り組むことができる児童の育成を行った。</p> <p>令和4年度には、令和3・4年度公益社団法人日本学校歯科医会委嘱「生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業」研究発表会にて2年間の取組と成果を発表した。</p> <p>こうした取組は、今後の歯と口の健康づくりの実践として、他の取組の参考になるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
雲南市立三刀屋小学校	小田川 徹 哉	<p>学年ごとにキャリア教育年間指導計画を作成し、教科横断的に、教育活動全体を通して児童が将来の進路について考える活動を設定したり、キャリアパスポートを活用したりするなど、キャリア教育の視点で地域と連携を図りながら、児童の将来につながる長期的な進路支援に向けた研究を行った。結果、生徒指導上の問題の減少や、学力の向上にもつながった。</p> <p>また、雲南市のキャリア教育プログラム『「夢」発見プログラム』の取組をベースとし、地域素材を利活用したキャリア教育の研究を深め、児童の育成に取り組んだ。第33回県キャリア教育研究大会実践発表校の指定を受け、令和4年度の研究大会ではこれまでの取組と成果を発表し、普及に努めた。</p>
隠岐の島町立都万小学校	林 明 範	<p>令和元年から3年度までの3年間、算数科と学級活動を中心に『主体的・対話的で深い学び』を実現するための授業改善プロジェクト事業」研究校として取り組んだ。子どもたちが自ら考えて進める学習スタイルを確立させ、児童が相互のかかわりの中で考えを深める授業づくりを目指し、授業や学級活動、評価場面においてさまざまな教育実践を積み重ねた。</p> <p>令和4年度からはさらに外国語科、外国語活動にも研究の幅を広げている。都万小学校の主体的な学びのスタイルと評価方法、それを支える積極的で組織的な生徒指導の取組は、県全体でも参考になる教育実践である。</p>
安来市立第一中学校	田 中 修	<p>令和4年度島根県国語教育研究大会・島根県書写教育研究大会に向け、令和2年度から3か年にわたり、校内研究主題「つながり、高め合う生徒の育成～生徒が主体的に取り組む授業のための指導と評価の在り方～」、国語科研究主題「自ら学び、確かな国語力を身につけた生徒の育成」を掲げ、全校体制で研究を進めた。</p> <p>授業づくりと人間関係づくりを柱に、国語科が中心となって「話し合い活動を取り入れること」「指導に生かすための振返りの工夫」を掲げ、生徒の確かで豊かな言葉の力を育むことに注力した。</p> <p>これらの研究成果は令和5年度にも引き継がれ、国語科を中心に「つながり、高め合う生徒の育成」の一層の深化・充実を図っている。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
雲南市立三刀屋中学校	上 代 直 文	<p>「全教育活動における協働的な学びの実践」と「社会や自己の将来と関連づけた授業の実践」を研究の柱として、人間関係・社会形成能力とキャリアプランニング能力の育成をねらいとして研究を進めた。また、キャリアパスポートを活用した校区内の小学校との連携により、生徒が長期的に自身の変容や成長を自己評価できるよう、系統的に取り組んだ。</p> <p>取組を具現化するために、地域素材や ICT を利活用したキャリア教育の研究を深め、生徒の育成に取り組んだ。第33回県キャリア教育研究大会授業公開校の指定を受け、令和4年度の研究大会ではこれまでの取組と成果を発表するとともに、授業を公開し普及に努めた。</p>
益田市立益田東中学校	大 庭 匡 史	<p>令和元年度より、2年生の総合的な学習の時間で「6か るプロジェクト」を継続して実施。公民館を中心とした地域活動の体験や交流を通して、活動の意義や内容、地域の方々の思いを理解しつながることで、地域への愛着を深め、地域貢献の姿勢を養うための教育活動である。</p> <p>活動を継続する中で地域からの協力が増えており、生徒たちの主体的に地域と関わろうとする姿勢としても、その成果が表れている。</p> <p>近年では、取組を全学年に広げ、地域とつながる場を深化・拡充させるほか、対話型の学級活動も並行して推進している。</p> <p>これらの複合的な取組により、学校内外で人とのつながりを深め、自分の将来を見つめ、自分で考えて行動する生徒の育成に成果を出している。こうした取組は、ふるさと教育、キャリア教育の優れた実践として、他の学校の参考になるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
島根県立松江東高等学校	山 崎 誠	<p>令和元年度から3年間にわたり文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」の指定を受けた。「地域共創人育成 project」を立ち上げ、地域の商工会議所、中小企業家同友会、松江市や島根大学などからなるコンソーシアムの支援や協働のもと、「地域連携で深い学びを追求する普通高校」として総合的な探究の時間や学校設定科目を中心に、地域と繋がるさまざまな活動を展開した。</p> <p>事業終了後もこの取組を続けており、生徒の地域への愛着を育むとともに、地域の人々が積極的に講師を引き受けるようになるなど、学校と地域の連携が深まっている。これらの取組は、地域課題探究教育の実践として、他の参考になるものである。</p>
島根県立矢上高等学校	駒 川 一 彦	<p>平成25年度から地域課題に着目した探究活動に取り組んでおり、令和4年度に10年目をむかえた。</p> <p>令和2年には文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」に採択され、「おおなん協育プロジェクト～邑南町総がかり！協働で育む“協育”カリキュラムの開発～」と題し、探究活動を含めた地域との連携をさらに推し進めた。</p> <p>長年にわたる生徒と地域の協働の成果として、取組を行った普通科だけでなく、他学科の生徒にも影響が表れており、特に地域課題の解決方法を考えようとする生徒が増えた。こうした取組は他の学校の参考になるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
島根県立盲学校	石 原 敏 彦	<p>10年以上にわたり、「点字ブロックの日（3/18）」の前後に、JR松江駅で児童生徒・保護者・教職員と一緒に、点字ブロックの理解啓発活動を行っている。JR松江駅で放送される「点字ブロックに関するお願い」は、活動の一環として児童生徒がお願い放送（音声CD）を作成し、JR松江駅での放送を依頼したものである。また、地域の商業施設で幼児児童生徒の作品を触って鑑賞できる「手でみる作品展」を実施。視覚障がいについての気づきを多くの人に提供する場を設けてきた。あん摩・鍼灸師を目指す専門課程（理療科）では、長年、地域の方に実際にあん摩等の施術を行っており、施術技術の向上を目指しながら、地域への貢献・交流活動を続けてきた。</p> <p>県内唯一の視覚障がい特別支援学校として使命感を持って行ったこれらの活動は、着実に盲学校と地域との連携強化や、視覚障がい教育の理解啓発につながっている。</p>

（注）上記の掲載順は、原則、小学校・中学校・高校・特別支援学校、かつ建制順による。

2 個人（5名）

氏 名	所属名・職名	表 彰 の 理 由
あら かわ ひと み 荒 川 仁 美	松江市立出雲郷小学校 講師	<p>長年にわたり、常勤講師として各校の教育活動の推進に尽力している。</p> <p>なかでも、中学年の道徳における竹島に関する学習の教材開発、総合的な学習の時間における発信力を育てるための竹島に関する学習の実施など、島根県の重点課題を取り上げた学習の実践に取り組んだ。そのほか、地域素材を積極的に取り入れる、対話を大切にした授業づくりを行うなど、常に問題意識、課題意識をもって教育活動に取り組んでいる。</p> <p>勤務校では管理職、同僚教職員からの信頼が厚く、現任校の松江市立出雲郷小学校においては学力向上チームのリーダーを務め、中心となって教職員の授業改善を推進。子どもたちの学力向上に大きく貢献している。</p> <p>学校教育にかける情熱と卓越した力量、指導力をもって臨む姿は、後進の範となるものである。</p>
い とう なお と 伊 藤 直 登	島根県立横田高等学校 教諭	<p>平成22年より男子ホッケー部の顧問として、全国大会上位に入賞できるチーム作りを行ってきた。その指導方法は生徒たちに課題を与え、それを生徒たち自身に考えさせ、話し合わせて、課題を乗り越えていくスタイルである。横田高校の目指す主体的、対話的で深い学びの実践に通じるものであり、全校生徒、地域へも紹介され、横田高校の模範的な学びのスタイルとして位置付けられている。この指導もあり、令和4年度には男子ホッケー部を全国高校三冠達成へと導いた。</p> <p>また、全国U-18のスタッフとしても活動する一方、学校では正担任を務めており、多忙ながらも部活動指導と担任業務を真摯に行う姿は、学業と部活動の両立を目指す生徒にとっての模範となっている。</p>

氏 名	所属名・職名	表 彰 の 理 由
かわ 谷 芳 寿 子 川 谷 芳 寿 子	島根県立松江ろう学校 教諭	<p>前任校の浜田ろう学校で3年間、現任校の松江ろう学校で5年間、乳幼児教育相談を牽引している。令和4年度からは聴覚障がい教育専任教員として、OJTによる若手教員の人材育成も担っている。聴覚障がいのある子どもやその保護者、関係者に対する早期からの相談・支援の実績や、難聴児への切れ目ない支援体制の構築に向けた医療・保健・福祉・教育との連携・協働など、ろう学校のセンター的機能の充実および、ろう教育の専門性の維持・向上に大きく貢献した。</p> <p>そのほか、幼稚園・保育所、小中学校、高等学校、大学等で研修講師を務め、聴覚障がいへの理解・啓発にも積極的に取り組んできた。</p>
さ 藤 秀 人 佐 藤 秀 人	島根県立松江東高等学校 教諭	<p>平成25年度に松江東高等学校へ赴任し、ボート部顧問として、ボート・船舶に関する知見を生かした、安全で丁寧な指導・育成を行っている。ボート部は、毎年度全国高校総体や全国選抜大会への出場を果たし、中国大会では男女アベック優勝を達成するなど、島根県ボート競技界における功績は大きい。</p> <p>平成27年度からは県高体連ボート専門部の専門委員長を務めているほか、地域の小中学生を対象とした体験会、練習会の企画・運営を行うなど、ボート競技の裾野拡大や選手強化にも尽力している。</p>
ひ 高 修 司 日 高 修 司	島根県立浜田養護学校 教諭	<p>教育庁特別支援教育課指導主事として在任中の令和2、3年度に、特別支援学校の新校務支援システムの導入の中心となり、これまで課題が多く、困難と考えられていた、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の県内統一様式作成に取り組んだ。令和4年度より校内でシステムの運用が開始され、現任校の教務主任として、効果的な指導や支援、効率的な働き方につながるように円滑な活用に向け、貢献している。</p> <p>また、浜田養護学校の中核的教員として生徒への指導、若手教員の人材育成など、教育現場全体をサポートする役割を担っており、学校運営にも貢献している。</p>

(注) 上記の掲載順は、五十音順による。